

時代が求める新たな教養教育

京都三大学教養教育研究・推進機構（教育IRセンター）主催
平成25年度 第2回 公開研究会

演題 「教養教育の再構築とカリキュラム・ポリシー 『問う力』を育てる教養教育の実践」

日本の高等教育の変化は、この20年余りで、教養部の解体、大学院重点化、国公立大学の独立行政法人化といった制度にかかわるものに見られました。同様に、高等教育の「現場」に集う学生にも変化が顕著に見られます。2000年代後半には、大学への進学率が55パーセントを超える一方、ゆとり教育を背景とした学生の学力低下が話題になるなど、これまでの大学での教育の体制では、立ちゆかなくなっているのが現状と言えます。それ故に、教育の質の保証が大学に求められ、日本の高等教育の歴史のなかでこれまでにないほどの教育改革が多くの大学において、なされつつあります。

大学での教育改革のひとつに、初年次教育があります。初年次教育の多くは、教養科目とは別個に、新入生に対して、大学での学び方を「教える」導入科目の意味合いを持っているようです。

本報告では、初年次教育に焦点をあて、日本の初年次教育の変遷と、多くの大学の初年次教育の失敗の起点がどこにあったかを明示した上で、解決策の一助として、「問う力」を鍵語とした報告者の教育実践例を紹介し、教養教育のカリキュラム構築とその運用に僅かでも貢献できるようにしたいと思います。

講師：東谷 護（とうや まもる）先生 （成城大学文芸学部准教授 共通教育研究センター専担）

講師略歴 東谷 護（とうや まもる）

京都大学大学院人間・環境学研究所博士後期課程修了。博士（人間・環境学）

【専攻】ポピュラー音楽研究、現代日本文化論、教養教育

【著書・論文】「大学での学び方『思考』のレッスン」勁草書房、2007年

「初年次教育にみる論文指導を考える—初年次用教科書を手がかりとして—」『成城大学共通教育論集』1号、2009年

「進駐軍クラブから歌謡曲へ—戦後日本ポピュラー音楽の黎明期—」みすず書房、2005年

「ポピュラー音楽からみる日本文化」(編著)、近刊

平成25年
開催時間
16:00~18:00

7/26

京都府立大学

本館・合同講義室棟2階 第1会議室

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

参加費
無料

参加申込方法

下記の京都三大学教養教育研究・推進機構のメールアドレスに、お名前、ご所属、連絡先（メールアドレス、電話番号）をご記入の上お送りください。E-Mail : kyouyou@kpu.ac.jp

時代が求める新たな教養教育の構築

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の国公立三大学の連携の取組は、すでに10年近い歴史があり、教養教育についても、平成17年に「中間まとめ」として、現在の取組の骨格にあたる内容がまとめられています。

本取組では、それぞれの大学の特徴・強みを生かしたカリキュラムを提供することにより、学生の多様な関心に応え、総合的に物事を観察し、的確に判断できる能力と豊かな人間性の涵養を図っていきます。平成26年度には、各大学が提供する科目によって、科目選択の幅が大きく広がり、学生のより多様な関心に応えることが可能になります。

本取組を推進する「京都三大学教養教育研究・推進機構」には、「リベラルアーツセンター」と「教育IRセンター」が設置され、教育プログラムの開発と教育の質保証を担っています。

北山文化環境ゾーンにおける三大学教養教育共同化施設（仮称）の建設

京都府が平成21年に策定した「北山文化環境ゾーン構想」の中で、京都府立大学は、植物園、総合資料館、コンサートホールとともに、文化・学術・環境地区を構成する一要素として位置付けられています。現在、本事業のために、鉄筋コンクリート3階建ての教養教育共同化施設（仮称）の建設が始まっています。その施設を中心に、共同化科目の授業が展開され、文部科学省補助事業の平成28年度終了時には、取組成果を「教養教育 京都モデル」として全国に発信していきます。



【JR京都駅、阪急烏丸駅から】

地下鉄烏丸線「北山」下車 1番出口から南へ徒歩7分

【京阪出町柳駅から】

市バス1「府立大学前」下車 徒歩5分

【JR二条駅から】

市バス206「府立大学前」下車 徒歩5分



1階には最大100~200名収容の講義室が計6室、食堂など充実の設備が予定されています。